

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		平成14年度～			
総合計画	大項目	基本目標	01	安全で快適に暮らせるまちづくり	根拠法令・規程等
	中項目	基本施策	03	自然と共生まちづくり	
	小項目	施策	01	河川改修・砂防施設整備	
事務事業名		01	県河川維持管理事業		問 担当課(室) 都市整備課 職・氏名 管理係長・岸本豊弘 電 話 0869-64-1833

事業の実施		
対象(誰・何に対して)	県管理河川地域住民	
目的(何のために)	県管理の樋門等の管理を委託し住民の安全を図る	
行政活動(どのような方法で)	二級河川に設置された県管理河川の樋門等の管理委託事務及び維持管理補修要望事務	
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	災害時等の被害を最小限にしたい	

事業の実績					
活動	実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	樋門等設置箇所	箇所	18	18	18
	苦情件数	件	1	1	1
実績	直接事業費	千円	434	478	477
	必要人員	人	0.16人	0.09人	0.03人
	必要人件費	千円	1,468	858	352
	事業費	千円	1,902	1,336	829
	国・県支出金	千円	400	400	409
財源	受益者負担金	千円			
	総収入	千円			
	市債	千円			
	その他( )	千円			
	一般財源	千円	1,502	936	420
受益者負担比率		%			

結果指標名		単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
結果指標①	結果指標量	箇所	18	18	18
	対前年対比	%	-	100.0%	100.0%
	活動コスト	円	1,902,000	1,336,000	829,000
結果指標②	単位当たりコスト	円	105,667	74,222	0
	結果指標量	-			
	対前年対比	%			
活動コスト	円				

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
苦情処理件数	目標値(A)	1	1	1	0
	実績値(B)	1	1	1	到達目標年度
	達成率(B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	毎年
成果指標設定の考え方・式や説明					
苦情連絡件数(B) / 苦情連絡対応処理件数(A)					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価			
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	妥当性評価<A~E> 判定理由・課題認識 地域住民が安心して生活が送れるよう樋門等の管理は必要である。
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い 説明	
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> 判定理由・課題認識 地域住民との連絡を取りながら、できる限り地域で管理してもらえよう指導していく
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価<A~E> 判定理由・課題認識 故障発生時に樋門管理者からの連絡に迅速に対応し処理にあっている
有効性の評価	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	

平成21年度の状況										
目標値	結果指標量①	苦情処理件数	結果指標量②	成果指標量						
				0						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了			
説明	本年度は樋門の一部補修が行われたことにより操作性が向上した									

総合評価		
地域住民が安心して生活するために樋門の管理は必要であり、今後も引き続き管理していかなければならない。	評価区分<A~E> C	

平成22年度以降の方向性・内容							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	平成22年度以降も引き続き行う必要がある。						
改善がある場合	評価の視点	改善内容		改善時期	改善により期待される効果		
	有効性	県への樋門修繕の要望		毎年	樋門管理人の管理・操作の負担軽減		